

70
会報

響き

発行所 公益財団法人 聴覚障害者教育福祉協会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-11
福祉財団ビル5F
TEL 03-6907-2537
FAX 03-6907-2915
発行人 山東 昭子 編集人 櫻井 博
(題字 山東昭子会長)

平成二十八年度
理事会・評議員会報告

理事会 平成二十八年度五月二十三日開催
評議員会 平成二十八年度六月十三日開催

- ① 平成二十七年事業報告に関する件
理事会において承認され、評議員会で報告がなされた。
- ② 平成二十七年収支決算に関する件
収支決算報告、監査報告が行われ、理事会、評議員会で承認決議された。貸借対照表及び正味財産増減計算書並びにこれらの附属明細書の承認を受けた。
- ③ 役員等の異動に関する件 (役員名簿参照)
役員等改選の時期ではありませんが、評議員の亀田知弘様が退任され、新たに伊藤忠様が就任されました。亀田知弘様におかれましては、当協会発展のためにご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。就任された伊藤忠様より、深くお願いいたします。
- ④ 平成二十八年度事業計画に関する件
平成二十八年度JKA補助事業及び一般事業の実施について承認決議された。
- ⑤ 平成二十八年度収支予算に関する件
理事会において承認され、評議員会で報告がなされた。

平成二十八年度事業計画

【補助事業】公益財団法人JKA競輪収益助成事業

① FM補聴システム無償貸与事業

② 移動母子教室を全国五ヶ所で開催

【一般事業】

① 事業案内

全国聾学校に事業案内送付、全国聾学校校長会総会で事業説明

② 「第三十九回聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」
平成二十八年度十二月五日(月)(予定)

*平成二十九年一月二十三日(月)に決定しました。
会場：衆議院憲政記念館(千代田区永田町)

後援：文部科学省・厚生労働省、東京都教育委員会、全国聾学校校長会、全国聾学校PTA連合会、全国聴覚障害者親の会連合会

③ 第二十一回全国聾学校絵画展

審査会：平成二十八年度七月三十日

展覧会：平成二十八年度十月十三日・十四日

会場：筑波大学附属聴覚特別支援学校

表彰式：最優秀賞・文部科学大臣賞受賞者在籍校に会長が赴いて実施

後援：文部科学省・全国聾学校校長会、全国聾学校PTA連合会、全国聴覚障害者親の会連合会

④ 第二十八回全国聾学校合奏コンクール

課題曲：自由

審査会：平成二十九年一月十日

表彰式：金賞・文部科学大臣賞受賞校に会長が赴いて実施

後援：文部科学省・全国聾学校校長会、全国聾学校PTA連合会、全国聴覚障害者親の会連合会

⑤ 第十二回全国聾学校作文コンクール

テーマ：自由

審査会：第一次 平成二十八年度八月二十日

第二次 平成二十八年度九月十七日

調査研究委員会：応募作品の分析研究調査

表彰式：「第三十九回聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」で実施

共催：全国聾学校校長会

後援：文部科学省、東京都教育委員会、全国聾学校PTA連合会、全国聴覚障害者親の会連合会

⑥ 読字力検定試験 年間三回実施

⑦ 聴覚障害教育関係資料収集事業

⑧ 会報「響き」の発行 年二回

⑨ 募金活動(ハマナス募金) 目標額千五百万円

⑩ 法律相談(インターネット等による法律相談)

⑪ 専門図書、ビデオの紹介・頒布

⑫ 協会ホームページの公開・更新等

⑬ 聴覚障害教育研究団体・聴覚障害教育振興奨励会・全日本聾教育研究大会への助成

【役員名簿】 (敬称略)

理事

(会長) 山東昭子 (副会長) 森伸夫、浅井健二

(専務理事) 櫻井博

(常務理事) 木内弘司、宮野忠夫、小林明、仲田邦男

(理事) 秋谷義一、阿部きみよ、入澤肇、桑山哲夫、田中助英、田中美郷、平口洋、藤本登、牧島ミリ、山田春雄、中村喜久子

(監事) 吉本修二、関根正浩

評議員

荒崎勝美、石川庄六、伊藤忠、大塚明敏、大沼直紀、大場利秋、小川昭子、小俣昌道、金子昌夫、木村澄藏、神津郁子、小島藤昭、齋藤佐和、鈴木茂樹、竹内美和子、武田智彦、田中眞由美、戸田典尚、野崎正史、原島恒夫、宮本一郎、山勝彦、四日市章、若林友晴(事務局長) 上田久三

協会の事業

平成二十八年年度 第一回読字力検定試験

本年六月実施の読字力検定試験の結果は左記の通りでした。第二回(十月)、第三回(二月)でも、合格目指して頑張ってください。

- ・受験学校数 五十七校
- ・受験者総数 一三六一名
- ・合格者 一一〇九名
- ・合格証授与者数 四〇三名

第二十二回 全国聾学校絵画展

今年度の審査会は、応募学校数二十七校、応募作品総数は五百七十二点でした。内訳は幼稚部十一校・百三点、小学部二十三校・二百七十点、中学部十五校・百三十八点、高等部・専攻科十三校・六十一点でした。今年度の最優秀賞、優秀賞受賞者は次の十六名です。おめでとうございます。

最優秀賞・文科科学大臣賞

筑波大学附属聴覚特別支援学校

高等部専攻科一年 池田 帆波

最優秀賞

鹿児島県立鹿児島聾学校

小学部五年 福永 心雪

優秀賞(幼稚部・小学部部門)

畠山 和夏(盛岡校) 新井 海斗(葛飾校)

寺澤 剛瑠(長野校) 瀬角 羽菜(沼津校)

戸田 風斗(松山校) 大庭 萌(直方校)

濱田 壘(熊本校)

優秀賞(中学部・高等部部門)

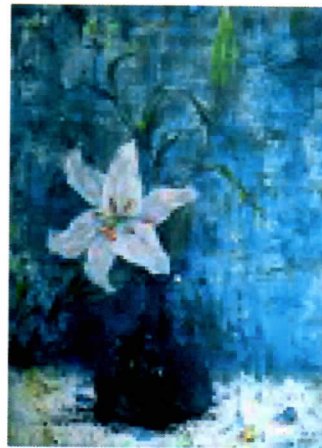
室井 彩(福島校) 宮澤 一生(長野校)

田口 新汰(長野校) 黒宮 海斗(一宮校)

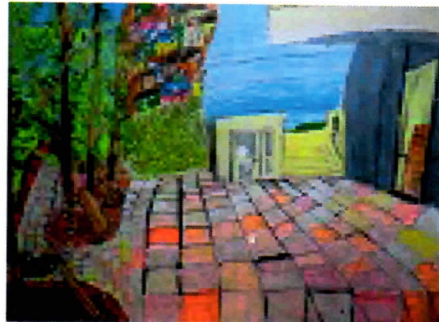
岡田 大希(浜田校) 岡本 早純(直方校)

乗富 和地(熊本校)

最優秀賞(二点)並びに優秀賞受賞作品(十四点)は、平成二十八年年度第五十回全日本聾教育研究会(附属大会)会場において展示されました。作品を応募した児童・生徒全員に、参加賞(クリア・ファイル)、優秀賞受賞者(十六点)には絵の具メーカー(株)クサカベ提供の「絵の具セット」を副賞として贈っています。



最優秀賞 [文科大臣賞] (中・高等部門)
「生命」池田 帆波
筑波大学附属聴覚特別支援学校



最優秀賞 (幼・小学部門)
「思い出の道」福永 心雪
鹿児島県立鹿児島聾学校



「聴覚障害」(季刊)
表紙の挿絵は全国聾学校絵画展の
優秀賞作品が載せられています

●絵画展審査員講評

審査員 木脇康一 (洋画家)

今年の絵画展は、昨年度より二校少ない二十七校でしたが、応募作品数は例年に近い五百七十二点の応募がありました。今年度より審査基準の見直しがあり、入選数を増やすということで優秀賞(最優秀賞を含む)を十二点から十六点と増やされました。また、応募校の全てに入選作(佳作を含む全六十六点)が一点は入るように配慮することとなりました。

審査会場にいったいに並べられた作品を一覧すると、どれを見ても上手な作品だらけという印象をもちます。選定時、どれもが甲乙つけがたく紙一重の差であって、なかには選ばなかったほうの作品がよかったかもしれないという思いをすることがあります。全体として幼稚部・小学部においては色彩や表現が自由で、のびのびとしており、中学部・高等部になると構成、構図の表現が優れた作品が多くなりますが、色彩においてはやや常識的な面が多かったように感じます。その中で表現の面白さ、色彩感、感動が強く伝わってくる作品に注目して入選作を選びました。

幼稚部・小学部部門 最優秀賞の「思い出の道」は、道に対する強い思いがこのようなカラフルな色の道にさせたのでしょう。色の対比、構成等大変バランスの良い作品です。優秀賞の畠山和夏さんの「えがおの木」は、楽しく踊っているような木の形態とその背景の雑多な物や色がかくかく面白い作品です。新井海斗さんの「東京に出たオーロラ」は、一目見て黒でふちどられた建物と色全体に個性的な印象を受けました。寺澤剛瑠さんの「生けんめいそうじ」は、画題通り作者の心が強く伝わり、モノトーンで真剣な表情、力強い腕、雑巾の表現が見事で力作です。瀬角羽菜さんの「心やさしいかいじゅう」は、怖いはずのかいじゅうに子供は笑顔、背景の色彩も踊るようで楽しい絵です。戸田風斗さんの「かけっこ」は、大きな顔と目、立った髪の毛、腕の動きに背景の赤い色

があいまって躍動感あふれる作品です。大庭萌さんの「でんしゃのつたよ」は、でんしゃのユニークな形と色の発想の面白さと車両ごとに子供たちの喜ぶ顔が見られる楽しい絵です。濱田墨さんの「ぼくのかぞく」は、ハートのような形に囲まれた大きな顔、まわりに家族の顔が幸せそうに微笑ましい作品です。

中学部・高等部(専攻科)部門 最優秀賞、文部科学大臣賞に選ばれた池田帆波さんの「生命」は、最初見た時から最後まで強く印象に残った作品でした。渋味のあるグリーンとブルーが溶け合う中でカサブランカが静かに何かをつぶやきかけているようです。傑作です。優秀賞の室井彩さんの「水族館2丁目!」水槽と向こう側に街並みという構成の発想に感嘆しました。亀、魚たち、建物の確かな描写力を感じます。宮澤一生さんの「クジャク」は、色彩の乱舞と響き合いの空間が美しく、愛らしいクジャクの顔が印象的です。田口新汰さんの「Study」は、なかなかの構成力があります。ブルーのクロスが赤いリングを引き立て響き合い、上部の黒い色が画面全体を引きしめています。佳い作品です。

黒宮海斗さんの「昔の家屋の風景」は、作品の色彩に感嘆しました。グリーンが多い中にバイオレットが響き合って考えつかない色使いです。岡田大希さんの「ZEB」地味な題材ながら作者のこまやかな愛情が伝わってきます。色も調和して描写力もあり深い絵となっています。岡本早純さんの「太宰府天満宮でお参り」は、絵の右下の余白の空間が効果的で主題をより強く生かしています。日本画的な感性を感じさせられます。乗富和地さんの「立派な健軍神社」は、作者の神社に対する思い入れが構図、色彩となって表現され、誠実さが伝わってくる作品となっています。

私的なことで恐縮ですが、私自身も聴覚障害者で都立品川聾学校(現在廃校)出身です。小学部三年生時、担任の先生から同校美術の先生に紹介され油絵を描き始めました。以来、高校卒業後も勤

めの傍ら画家になる夢を追い続け、団体展、グループ展に出品を続けてまいりました。七十才を超えましたが、今も個展(二十回)、企画展を毎年開催しております。

美術界に聴覚障害者は不利といった壁はありません。絵の好きな全国の出品者の皆さん、夢と希望をもって挑戦してみてはいかがでしょう。来年も皆さんの出品を楽しみにしております。

審査委員 錦織重治、矢澤健太郎、木脇康一
竹内一、上田久三

第十二回全国聾学校作文コンクール

全国聾学校作文コンクール第一次審査は八月二十日(土)に、第二次審査は九月十七日(土)に行われました。応募作品総数は昨年度と同じで百九十点でした。内訳は小学部絵日記・日記七点を含めて七十八点、中学部五十七点、高等部五十五点でした。今年度の入賞者は次の通りです。

金賞・文部科学大臣賞

山形県立山形聾学校

小学部六年 佐藤 美華

金賞・全国聾学校長会会長賞

筑波大学附属聴覚特別支援学校

中学部三年 吉村 桜

金賞・聴覚障害者教育福祉協会会長賞

筑波大学附属聴覚特別支援学校

高等部二年 濱田この実

銀賞

大橋李玖人(静岡校) 池田 優月(葛飾校)

柴田 琴美(沼津校) 井本 彩巴(名古屋校)

雪田 桃乃(熊本校) 小林 美彩(筑波校)

銅賞

小室 優樹(立川校) 片桐 聡美(千種校)

加藤 悠(筑波校) 北 真季美(名古屋校)

松野 華奈(立川校) 秋山 沙耶(栃木校)
金賞入賞者三名の表彰は、平成二十九年一月二十三日(月)の「第三十九回聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」において、実施いたします。また、同日、文部科学大臣賞受賞者は自身の作文を壇上で口頭発表します。

第二十八回全国聾学校合奏コンクール

全国聾学校合奏コンクールの第一次審査は十一月七日(月)に、参議院議員会館会議室で行われました。今年度は応募校数十九校、参加チーム数二十四チーム。演奏した小学部児童数は百二十五名、中学部生徒数は七十九名、高等部生徒数は二十八名、合計二百三十二名でした。

「第二次審査進出チーム」

青森県立八戸聾学校中学部「リベルタンゴ」

福島県立聾学校会津分校小学部「ラデッキー行進曲」

東京都立大塚ろう学校小学部「パイレーツ・オブ・カリビアン メドレー」

東京都立大塚ろう学校小学部「生命の息吹」

愛知県立一宮聾学校 中・高部「浪漫飛行」

愛知県立一宮聾学校高等部「LIVE/EVIL」

「truth」メドレー

香川県立聾学校中学部「かぜまち」

鹿児島県立鹿児島聾学校中学部「プリンク・プランク・プランク」

大阪府立生野聴覚支援学校小学部「子どもの世界」

筑波大学附属聴覚特別支援学校小学部「狼なんかこわくない」

筑波大学附属聴覚特別支援学校小学部「星に願いを」

●合奏コンクール第一次審査 審査員講評

審査員 草間みどり(都立立川ろう学校副校長)

本年度の参加作品は、どの作品も児童・生徒の皆さんが練習を積み重ね、よりよい表現をめざし

ている聴きこたえのある演奏でした。一つの学校で複数のチームにより二曲以上出される学校や、少人数のチーム、または学部を超えて小さい子供さんからお兄さんお姉さんまで全員で取り組んだ合奏もあったのが印象的でした。各学校の先生方が日頃から、丁寧にご指導され、児童・生徒さんたちと真剣にまた楽しく音楽活動をしている様子がうかがえました。

打楽器の種類が増えている印象を持ちました。フリーズ感を出すための工夫や音色の組み合わせと音のバランスを大切にしようと努力している演奏が増えてきたことは、大変喜ばしく思います。基本的な打楽器の持ち方の確認や、バスドラム、ティンパニー等のチューニングにも気を付けましょう。

また、メロディを共有しながら、お互いの音を確かめつつ、リズム、フリーズの中での縦線を整えていくと、さらに良い合奏になります。お互いが拍やリズムを知りフリーズを感じ合うために、リズムを刻むドラムやその他の打楽器と、メロディーやハーモニーを担当するキーボードや鍵盤ハーモニカが向かいあって練習するのも有効です。

どの学校もあと少しのところで二次審査に進める演奏をしています。ぜひ、来年度に向けての努力を絶やさず、次回の全国聾学校合奏コンクールに臨んでください。

二次審査に進んだ学校では、指摘を参考により良い演奏を工夫し、練習を重ねてください。さらに素晴らしい演奏が聴けることを期待しています。

第三十九回聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会

今年度の「聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」は下記により開催いたします。どなたでもご参加できますので、ぜひ多くの皆様のご来場をお待ち申し上げます。なお、ご参加（参加費無料）の場合は「参加者名簿」作成のため、事前予約が必要です。協会にご連絡いただければ出席申込書をお送りいたします。

日時 平成二十九年一月二十三日（月）

午後一時～三時二十分

会場 憲政記念館 東京都千代田区永田町

主催 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会

後援 文部科学省 厚生労働省 東京都教育委員会 全国聾学校長会 全国聾学校PTA連合会 全国聴覚障害者親の会連合会 株式会社日健総本社 他

協賛 第一部 式典

会長挨拶 来賓祝辞 お母さんの表彰
桜内義雄賞授与 第十二回全国聾学校
作文コンクール金賞受賞者表彰
第二部 発表会
聾学校生徒の舞台発表 体験発表 桜
内義雄賞受賞者の体験発表 作文コン
クール審査委員長講評 第十二回作文
コンクール文部科学大臣賞受賞作品発
表 第二十一回絵画展ビデオ放映

●桜内義雄賞

「桜内義雄賞」は、当協会第二代会長故桜内義雄氏（元衆議院議長）が、昭和五十年、聴覚障害児教育国際会議東京大会の際、日本橋高島屋特設ギャラリーで開催された「聴覚障害者洋画展」で、大原省三氏をはじめ出品した多くの聴覚障害者の人達と懇談されました。これをきっかけに、桜内会長より、大原省三氏（東京教育大学附属聾学校教諭）の日展二十数回の画歴と教諭として多くの後輩の指導に立派な成果をあげた功績を顕彰する発議が出され表彰式を行いました。その後、この表彰を制度化することとなり、昭和六十一年度より始められました。表彰楯には「聴覚障害を克服し、社会の発展に貢献されたあなたの功績を讃え、桜内義雄賞の規定により表彰します」と刻まれています。

平成二十八年年度「桜内義雄賞」受賞者

今年度の桜内義雄賞は、田村聡さんが選ばれました。1965年1月、東京都立川市生まれ。

都立立川ろう学校高等部卒。受賞理由は「耳のハンディを乗り越え、世界最高峰エベレストの登頂に成功（聴覚障害者として世界初の快挙）」というものです。



エベレスト登頂記念

トピック

聴覚障害乳幼児教育相談の制度化に向けて

常務理事（全国聾学校退職校長会相談役）小林 明
昨年度名古屋で行われた平成二十七年全国聾学校退職校長会総会において北陸地区の理事から、教育現場における乳幼児教育相談の窮状について課題視する必要性が提起された。新生児の聴覚スクリーニングの普及等に伴い0・1・2歳児を対象とした相談件数が急増し、現場が相談担当者と必要経費確保に難渋しつつも二名の担当者で六十八名の相談を担当するという現状を見るに見かねての提言であった。

日本の聴覚障害教育は、昭和六十二年の筑波技術短期大学（平成十七年筑波技術大学）開学により幼・小・中・高・大の一貫教育体制は整ったものの就学前段階は文部行政と厚生行政の狭間で未制度のままに過ぎてきている。

全国聾学校長会（会長森藤才東京都立立川ろう学校長）が本年度改めて所属する学校で乳幼児教育相談を行っている全国九十九校（分校、分教室を含む）を対象に本件に関わる実態調査をまとめた。実態調査は、平成二十八年五月一日を基準日とし六月～七月に行なわれ回収率一〇〇%であった。

それによると制度が整っていないにも関わらず全校（九十九校）で相談対応は行われており、年間の延べ来校相談件数は三万九千六百八十件、延べ訪問相談件数二千五百七件を加えると総計四万二千八百七十七件であった。各都道府県自治体から事業名は様々であるが何らかの形で定数措置を講じられている学校が四十四校六十名で、校内操作のみで対応している学校が五十四校であった。

概ね各学校共指導担当者を複数配置しており、加配措置のある学校でも不足分を校内操作で充当せざるを得ず、その分同一校内各学部の指導体制へも大きく影響が及んでいるのが現状である。また教材費等の予算措置が講じられているのは三十五校に過ぎず、他は保護者からの実費徴収、学部配当予算等で対応している点も問題である。

今般の実態調査は、相談内容や所要時間、担当者の専門性、施設設備、保育所在籍児の通級指導、関連機関との連携等多岐にわたって集約されているが、幼稚園部の三歳児学級が制度化された一九六〇年代から半世紀以上が経過したにも関わらず当時の課題を改めて浮き彫りにした感を拭えないものとなっている。

全国聾学校長会では、毎年度全国特別支援学校長会を通して本件に関わる要望を文部科学省に要請してはいるが、さらに聴覚障害教育の充実並びに一貫性の確立に向け、その要望の実現に向け、

本協会は勿論のこと当事者である保護者を含む関係者の総力を全国聾学校長会の許に結集し、法制化に焦点化した要請活動を進めることが今後のために今必要であると考えるところである。

慶 弔

●ご逝去

協会監事 吉本修二氏 七月二十四日 享年七十四歳
※平成十九年五月～協会理事 平成二十三年～協会監事就任 本協会に多大なご貢献をいただきました。ご冥福をお祈りするとともに、ここに謹んでご報告申し上げます。

ハマナス募金

当協会で実施しております事業は、公益財団法人JKA競輪公益資金の補助をはじめとして、皆様方からのご寄附（ハマナス募金）により実施しています。

皆様方のご理解とご支援に深く感謝いたしております。

今年度も計画事業の適正な実施に努めているところでございますが、昨今の社会情勢から事業資金の確保が大変厳しい状況にあります。つきましては、皆様方より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ハマナス募金のお振込みは、郵便振替もしくは銀行振込にてお願いいたします。

郵便振替口座 00110・9・134877

名義 聴覚障害者教育福祉協会

銀行振込 みずほ銀行江戸川橋支店

普通口座 1615748

名義 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会

会長 山東昭子

当協会は、平成二十四年四月六日内閣府（内閣総理大臣）より税額控除に係る証明を受理しております。

.....

平成二十八年四月一日から十月までの間に、次の皆様方よりご寄附をお寄せいただきました。誠に有難うございました。

（敬称略）

株式会社日健総本社（森伸夫）、森伸夫、西郷ソーラー発電（浅井健二）、東京ホールディングス（浅井健二）、竹内美和子、宮野忠夫、庄司淳子、阿部きみよ、金子昌夫、株式会社宝古堂美術（山田春雄）、神津郁子・田中真由美、木内弘司、石川庄六、鈴木厚、桑山哲夫、ATOMICS（山勝彦）、北海道高等聾学校、群馬県立聾学校群馬県聴覚障害者親の会、一般社団法人日本補聴器販売店協会、関根正浩、新潟県難聴児を持つ親の会、春名英徳、長野ろう学校職員有志一同、伊与久美子、坂井美恵子、倉田正雄、佐々木節子、平口洋、入澤肇、竹田統子、神邊洋吾、筑波大学附属聴覚特別支援学校卒業生親の会鴻友会、竹ヶ原克哉事務所、（株）大場組、小川昭子、西本徹、草薙進郎、白鷺会、田中美郷、ライシャワークレマー学園、中村喜久子、斎藤捷彦、リオン株式会社、兵藤紀之、原島恒夫、川村美津子、東京銀座ライオンズクラブ会長山田春雄、株式会社PM・Japan、伏見殿下杯チャリティゴルフ実行委員会事務局

平成二十八年度

公益財団法人JKA競輪公益資金による

補助事業実施計画

一、事業名

平成二十八年度障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業

二、事業実施内容

(一) FM補聴システム(リオン株式会社製)の

購入・無償貸与
送信機・受信機三十セット
全国聾学校・聴覚特別支援学校、小学校、
中学校、難聴幼児通園施設に在籍、在園
する幼児・児童・生徒の家庭に貸与

公益財団法人 聴覚障害者教育福祉協会

FM補聴システム

ママの声、しっかり聞いて、

BS・JISは、シンプルなFM補聴システムとして、聴覚障がい者が、マイクから伝わる音声をFM電波で、すくもばで聴いているような状態で聴くことができるシステムです。また、その音声を、タリタリと聴くこともできます。

送信機 受信機

シンプルボタンで
簡単操作

広範囲で使用可能
(送信機約30m)

充電式で経済的
(本体で充電可能)

聴覚の補助事業
RINGIRINGIプロジェクト

聴覚障がい者のための
「日本を断絶し」
という言葉を、
「ろうの看護師として、
これから」
と、これから

(二) 移動母子教室の開催(全国五地区)

第一回移動母子教室(十月十七日)

鹿児島県鹿児島市

第二回移動母子教室(十月二十五日)

群馬県前橋市

第三回移動母子教室(十一月三日)

石川県金沢市

第四回移動母子教室(十一月九日)

千葉県千葉市

「豊かな心を育て、ことばを育てる」
「聾学校における授業を考える」

第五回移動母子教室(平成二十九年一月七日)

東京都杉並区

「ろうの看護師として、これまでと今、そして、これから」



移動母子教室

石川県金沢市

* お詫びと訂正 *

会報六十九号(前号)6ページの全国聾学校絵画展審査員講評の中で、上から3段目、左から8・9行目にかけて記載のある「タバコをすう大人の僕」の作者は、正しくは静岡校中一の松井健太君でした。お詫びして訂正いたします。

編集後記

熊本、岩手、北海道、鳥取、等々。今号でも「被災地の皆様方に心よりお見舞い申し上げます。」というお見舞いの言葉を、残念ながら続けざるを得ないような自然災害の状況です。一度でも途切れると良いのですが。

四月末に前号(六十九号)をお届けしているので、今号ではまず五月・六月の理事会及び評議員会の報告、新役員のご紹介、事業計画等を掲載いたしました。今年度は千葉県市川市で第五十回の記念すべき全日本聾教育研究大会(附属大会)が開催されました。その際、本協会として例年通りの絵画展と、今年度ならではの企画で合奏コンクールの昨年度入賞校の演奏紹介をDVDの映像等で行いました。いかがだったでしょうか。また、五十周年記念式典の中で、本協会は小川再治研究協賛会と並んで全日本聾教育研究会から感謝状をいただきました。今後も関係団体としてこの研究会をしっかりと支えていこうという思いを新たにいたしました。

今号では本協会常務理事であり全国聾学校退職校長会顧問の小林明氏の「聴覚障害乳幼児教育相談の制度化に向けて」の原稿も掲載することができました。有難うございました。

平成二十八年度の協会事業は、「第一回読字力検定試験」をはじめとして、「絵画展」、「作文コンクール」、「合奏コンクール第一次審査」が無事に終了しております。また、日程調整の結果、「聴覚障害児を育てたお母さんをたたる会」も、来年一月二十三日(月)に開催することが決定し、準備を進めているところです。

「お母さんをたたる会」をはじめといたしまして、協会の各事業の実施にあたりましては、全国の聾学校、聴覚特別支援学校等の関係機関のご理解とご協力があってはじめて実施できます。今後とも協会事業へのご理解並びにより一層のご支援を賜りますよう、事務局一同、心よりお願い申し上げます。